

一般社団法人 舞台藝術制作室無色透明



広島市における地域文化の活性化と、芸術のある暮らしを普及することを目的とし、その目的に資するため、芸術文化の社会普及に関する事業や文化活動及び人材育成に関する事業を行っている。また、福祉や介護、子育て支援等他分野においても、芸術によってもたらされる成果を活用、還元し豊なまちづくりに寄与することを目的とする法人。

【活動状況】

おきらく劇場ピロシマ - 演劇で人がつながる・まちづくり -

●演劇の手法を活かしたコミュニケーションの場づくり

- ・障がいのある方・地域に暮らす方等広く参加対象とし、広島市内公共施設で1回2時間の実施。地域トレーナーを中心に開催する「演劇クラブ」を全6回中5回実施、プロの演出家を講師に開催する「演劇ワークショップ」を全2回実施した。
- ・演劇クラブや演劇ワークショップでは身体障がいのある参加者の活動中の移動や読字などのサポートを、参加する他メンバーが積極的に引き受け、参加者同士が共に活動する中で、互いの特性を自然と理解していくことを目指した。共に助け合い、共に演劇を楽しむ場を講師、ファシリテーター、参加者という枠を越えて一緒に作り上げた。
- ・演劇クラブでは、コロナウイルスの感染拡大による活動の自粛という、参加者全員の共通体験を元に、演劇の手法を用いて作品の創作を行っている。創作の過程で参加者、自分自身を振り返り、他者の体験・思いを受け入れていく。
- また、参加者の中からサポート役を募り、会場準備やワークショップの中で進行の手伝いをしてもらい、参加者が率先して活動することで、他のサポート役ではない参加者も周りを気にかけ、進行を協力する場面があった。
- ・演劇ワークショップや演劇クラブでは、実際に参加者同士が空間を共にし、コミュニケーションをとることに重きを置いて開催しているが、感染症対策のため、個々の職場や施設の方針により参加見合せている参加希望者よりオンライン開催の可能性について相談があり、模索中である。
- ・演劇ワークショップや演劇クラブに新しく参加された方が一度きりではなく継続して関係性を作れる場、環境を作る為、毎回、ワークショップ終わりに参加者と感想の振り返りを共有している。参加者の約8割は継続して参加。

●Webを利用した情報発信

劇団が運営する YouTube チャンネルから定期的に、演劇クラブで実践している活動の内容等を発信。他地域や団体、関心のある個人へ活動を広める。

おきらく劇場ピロシマ
YouTube チャンネル
「演劇クラブ」を通じて行ってきた
シアターゲームなどを紹介。



●鑑賞支援・参加支援の取り組み

劇団に参加する障害のある方・地域で暮らす方々、地域俳優と協働して舞台藝術作品の創作し、宮崎県主催事業での公演を行う。また、演劇クラブの最終回には、コロナウイルスの感染拡大による活動の自粛という、参加者全員の共通体験を元に、演劇の手法を用いて創作した作品を参加者中心に舞台発表会を開催する。

公演・発表の際はタブレット端末を使用した字幕配信システムを導入する。

【課題や展望、工夫したこと】

- ・他者や地域とのつながりを望みながらも、感染症対策だけに限らない様々な事情から移動を制限されている方々とどのような方法で繋がることができのか試行していく必要がある。
- ・演劇クラブ、発表公演の継続、地域で事業に携わる演劇ファシリテーターを中心とした演劇ワークショップの開催を行う。Webコンテンツからの発信により、課題を抱える地域からの相談を受け付ける拠点となることを目指す。



演劇クラブ募集チラシ(前期)



演劇クラブ募集チラシ(後期)



演劇ワークショップ募集チラシ

広島市内、
各施設へ配布



できる限り触れ合わないようワークにロープを使用



参加者がチームに分かれ、発表に向け話し合う



参加者同士、助け合いながら発表



参加者・スタッフも会場に入る前に非接触体温計で体温を測定、健康チェックを必ず行う。